

2年生の図工の授業。「シャボン玉の絵」から子どもの無限の可能性を感じ取る。



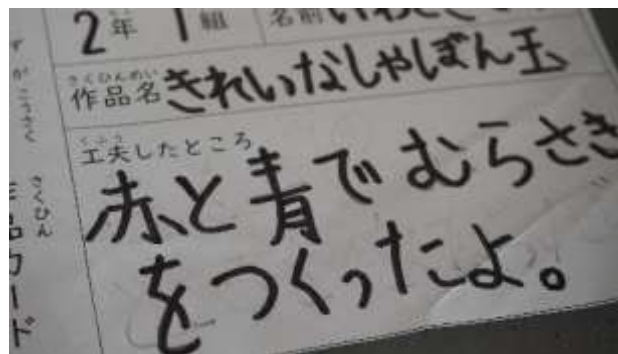
2年生がシャボン玉で遊んでいました。たまたま通りかかったときのスナップです。昔を懐かしんで、微笑ましく思ったのですが、実は大きな秘密が隠されていました（笑）

実は、2年生のみなさんは、図工で「シャボン玉の絵」を描くために遊んでいたのです。このように、子どもにとって楽しい活動から授業を組み立てる井上先生の授業力の高さが伝わってきます。

校長先生もその昔、3年生の担任だった時に、「シャボン玉の絵」に取り組みました。この授業は、全国的にも有名な絵画指導法がベースとなっています。私もやってみたから言えることですが、体験がベースとなって「子どもが描きたい！！」と思う場の設定をすることはとても大切なのです。

家庭教育にも通じる部分がありますが、私が先輩の校長先生から教えていただいた大切な言葉があります。それは「教師が学びとらせたいことを、子どもがやりたいこととして授業づくりをするのがプロの教師である」という言葉です。2年生のみなさんは、シャボン玉で遊ぶことで「このこと絵にしたい」と思ったに違いありません。子どもは「〇〇しなさい！」というサイに促されて活動するのではなく、「〇〇したい！」というタイが心の中に泳いだ時に真に学んでいくのです。これが、学びに向かう主体性というものです。そして、主体的な学びは、子どもの可能性をより引き出すことができるのです。論より証拠、子どもが描いた絵を見れば一目瞭然です。（HP版ではカラーで閲覧することができます）もし、自分の子どもや教え子がこのような生き生きとした絵を描くことができれば、親として、教師として大変うれしく思います。

いつも思うのですが、子どもの力や可能性は無限大なのだと思います。私たち教師はそれらを引き出すことが使命であり、職責なのだと実感した2年生の絵でした。（校長）※裏面は「虫眼鏡」



## 校長先生の虫眼鏡 「運動会に向けて準備万端」

明日の運動会に向けて、これまでいろいろな準備をしてきた子どもたちです。学校だよりでは、運動会が終わった後も秘話として紹介したいと思います。



リレーの説明を聞く白組



高学年を中心に順番などの作戦を立てる赤組